

令和 8 年度定時総会資料

令和 8 年 6 月 1 5 日

東 三 河 懇 話 会

令和8年6月15日（月）
於：ホテルアークリッシュ豊橋

東三河懇話会 令和8年度定時総会次第

- 15:30～16:15 **定時総会** 4階「ザ・テラスルーム」
議案1．令和7年度事業報告並びに収支決算報告の件
議案2．令和8年度事業計画（案）並びに収支予算（案）の件
議案3．役員改選の件
- 16:20～17:30 **記念講演** 4階「ザ・テラスルーム」
講師：国土交通省 大臣官房審議官（国土政策） 天野 正治氏
演題：「東三河における地域生活圏の形成について」
- 17:40～18:30 **交流懇親パーティー** 5階「ザ・グレイス」

※定時総会・記念講演は、通常開催に加えてオンライン配信を実施

議 案 1. 令和 7 年度事業報告並びに収支決算報告の件

令和 7 年度事業報告

自 令和 7 年 4 月 1 日

至 令和 8 年 3 月 31 日

令和 7 年度におけるわが国経済は、企業収益の改善が進み、緩やかな回復基調で推移したものの、米国政権の通商政策の影響が懸念され、中東情勢の緊迫化をはじめとする地政学リスクの高まりによるエネルギー価格の高騰などにより、景気の先行きは依然として不透明な状況が続きました。

このような状況のなか、産学官民交流事業における「東三河産学官交流サロン」、「東三河午さん交流会」は、オンラインの併用などの対応をとりながら、会員の皆さまの交流機会の創出継続に努めました。また、会員企業・団体の若手・女性社員を対象とした「東三河グローアップミーティング」を 2 回開催するとともに、スマートリージョンプロジェクトの具現化に対する取組として、東三河地域におけるデジタル人材の育成と地域課題解決のためのデジタル実装を目的に産学官のメンバーによる「東三河デジタル人材共創プロジェクト」を立ち上げ、ワーキンググループを 5 回、また学生ワークショップを 2 回、他にスピノフ企画として豊橋まちなか未来会議と連携した講演会を 1 回開催しました。

広域連携事業では、東三河地域のインフラ整備事業に関する情報提供・勉強の場として「三河港関連事業計画及び東三河地区幹線道路整備計画」説明会を三河港振興会との共催で開催しました。また、6 月の定時総会記念講演会において、豊橋技術科学大学 学長の若原昭浩氏に「半導体開発の歴史から見る東三河の産業界との連携について～実は裾野の広い半導体技術～」をテーマにご講演いただきました。その他、研究交流会を通して、三河港の各種課題や将来のあるべき姿について専門家と会員の皆さまが意見交換を行う「三河港未来戦略会議」、フォーラムの開催や参加団体活動見学会などを通して、東三河地域の生物多様性の保全に対する意識啓発と取組の活性化を図る「東三河生態系ネットワーク協議会」の事務局業務を担いました。

年明けには、新春恒例の「東三河 8 市町村長を囲む新春懇談会」を開催し、『縮減社会を見据えた各自治体におけるまちづくりの将来像』をメインテーマにパネルディスカッションを行うとともに、中部経済同友会及び浜松経済同友会と共催の「三遠南信地区地域懇談会」を 2 回開催し、行政や地域経済団体との連携強化に努めました。

会員サービス事業では、毎月 1 回、会員向けの「メールマガジン」を発行するとともに、ウェブサイト「会員専用ページ」における会員関連情報などの特定情報の掲載に加え、会員の皆さまからいただいた各種情報をタイムリーにホームページに掲載しました。また、「東三河地域問題セミナー」など公益社団法人東三河地域研究センター主催事業の会員向け周知活動を支援しました。

中東など不安定な国際情勢、資源価格の高騰や供給不安など依然として先が見通せない状況が続いていますが、新年度も会員の皆さまのニーズを的確に受け止め、事業運営に活かしていくとともに、新しい時代に即した地域づくりを推進するため、産学官民連携強化と交流促進に一層力を注いでまいります。会員の皆さまにおかれましては、今後も積極的なご参加をお願い申し上げます。

(1) 産学官民交流事業

①東三河産学官交流サロン

オンラインを併用して12回開催した。産学官民の交流連携、情報交換の場を提供するため、時流に沿った通期のテーマとして「サステナブル」を設定し、東三河の産学官民の講師を招聘し、タイムリーな情報を発信した。

(第486回～497回 詳細後記)

②東三河午さん交流会

計画通り10回開催した。東三河において社会活動や文化芸術活動を実践し、地域づくりに貢献されている方々を紹介し、会員への情報発信を行った。

(第251回～260回 詳細後記)

③東三河グローアップミーティング

「地域の価値を見つけてひらく」をテーマに emCAMPUS 運営室と協力し、若手会員相互の新しいつながりや、地域づくりを考えることからの学びと自己成長を目的とした視察会、並びに工場見学会&ワーキングを開催した。

(詳細後記)

④特別講演会

2月に特別講演会として、「そのシステム、本当に構築する必要がありますか?～縮減社会において、すぐにできて効果的なこと～」を開催した。

(詳細後記)

⑤「スマートリージョン研究会」の具現化

スマートリージョンプロジェクトにおけるプロジェクト具現化に向けた取組として、「東三河デジタル人材共創プロジェクト」を立ち上げて、ワーキンググループ5回、また学生ワークショップを2回、他にスピンオフ企画として講演会を1回開催した。

(詳細後記)

(2) 広域連携事業

①東三河8市町村長を囲む新春懇談会

新春恒例の事業として、東三河地域における共通の課題・テーマに関し、愛知県副知事、東三河8市町村長、湖西市長によるパネルディスカッションを実施した。「縮減社会を見据えた各自治体におけるまちづくりの将来像」をメインテーマとして、東三河の将来の展望や各市町村の役割など、活発な議論が行われた。なお、地元ケーブルテレビ3局による生中継、YouTubeを活用したオンライン配信を実施した。

(詳細後記、会報誌MIKAWA-NAVY特別号に掲載)

②三河港未来戦略会議

「日本の自動車リサイクルの現在地と今後の展望～自動車業界を取り巻く環境の変化について～」、「トランプ関税の最新動向および自動車産業に与える影響」、「中部圏のサプライチェーンの変化と地方港湾のあり方」をテーマに、公益社団法人東三河地域研究センターとともに研究交流会を3回開催した。

(詳細後記)

③東三河生態系ネットワーク協議会

東三河生態系ネットワーク協議会の事務局として、SDGs（持続可能な開発目標）の目標である「14.海の豊かさを守ろう」、「15.陸の豊かさを守ろう」を中心に活動を展開した。今年度は、月例役員会のほか、リーフレット活用による「協議会への参加呼び掛け」の取組、参加団体活動紹介による「ホームページコンテンツ」の拡充、並びに交付金対象事業として6月に奥三河方面を廻る「自然観察バスツアー」、9月に蒲郡市で「参加団体活動見学会」、10月に豊橋市にて「環境学習&フィールドワーク」、11月に豊川市で「東三河生態系ネットワークフォーラム2025」を開催するなど、生態系保全の重要性について理解を深めていただく活動を行った。また、愛知県より「生物多様性モニタリング調査業務（東三河地域）」を受託し、協議会参加団体が実施するフィールドワークに合わせ、計11回のモニタリング調査を実施した。

④地域インフラ事業の説明会

7月に「三河港関連事業計画及び東三河地区幹線道路整備計画」説明会を会場とオンライン併用にて、三河港振興会との共催で、同時開催した。

（詳細後記）

⑤各種団体との連携・協力

中部経済同友会、浜松経済同友会、三河港振興会等との連携・協力により、会員交流や産学官民連携に向けたセミナーや講演会などの取組を実施した。

（詳細後記）

（3）会員サービス事業

①広報活動の一層の推進

会員サービス事業では、ウェブサイトの「会員専用ページ」に、会員関連情報などの特定情報を閲覧できるよう提供した。また、会員の皆さまからの有用な情報をタイムリーに本会のホームページに無償で掲載するサービスを実施した。

②会員意見の収集と運営への活用

地域づくりや本会の活動等に関するニーズを把握し、現状活動内容の見直しを行うため、事業活動における会員からの意見集約に努めた。

③会員サービスの質的向上

公益社団法人東三河地域研究センターとの情報共有と連携強化を図り、同センターが保有するシンクタンク機能を活用し、会員にとって有益な産学官民交流及び広域連携事業の充実を進めた。

④公益社団法人東三河地域研究センター催事の支援

公益社団法人東三河地域研究センター主催で「東三河地域問題セミナー」を3回開催した。また、4校の高校生が参加した「ミライカフェほの国2026」、地元大学生による「東三河地域関連研究発表会」の支援を実施した。

（詳細後記）

(4) 会員増強

○新入会

[法人会員] 5 口

- ・ N P O 法人福祉住環境地域センター
- ・ 近畿日本ツーリスト株式会社 名古屋法人 M I C E 支店
- ・ 東邦ガス不動産開発株式会社
- ・ ジャパンエレベーターサービス東海株式会社
- ・ 株式会社ゼンリン 三河支店

(入会順・敬称略)

運営の部

1. 定時総会

令和 7 年 6 月 9 日 (月) 15:30～17:30

於：ホテルアークリッシュ豊橋 5 階 ザ・グレイス

・議事

議案 1. 令和 6 年度事業報告並びに収支決算報告の件

議案 2. 令和 7 年度事業計画 (案) 並びに収支予算 (案) の件

議案 3. 役員変更の件

・記念講演 豊橋技術科学大学 学長 若原 昭浩氏

「半導体開発の歴史から見る東三河の産業界との連携について

～実は裾野の広い半導体技術～

出席者：119 名 (オンライン 11 名含む：講演後、交流懇親パーティー実施)

2. 理事会

令和 7 年 5 月 13 日 (火) 11:00～11:40

於：ホテルアークリッシュ豊橋 4 階 ザ・テラスルーム (オンライン配信も実施)

3. 会員数及び口数の状況

(1) 入 会	法人会員	5 社	(5 口)
退 会	法人会員	3 社	(3 口)
	個人会員	1 名	(1 口)
減 口	法人会員	1 社	(1 口)

(2) 令和 8 年 3 月 31 日現在会員数

法人会員	167 社	(194 口)
個人会員	5 名	(5 口)
特別会員	13 団体	(31 口)
推薦会員	1 名	—

資料（事業の詳細）

1. 東三河産学官交流サロン 公益社団法人東三河地域研究センターと共催

（年 12 回、18:00～20:30）

（於：ホテルアークリッシュ豊橋 5 階 ザ・グレイス、R8.3.17 のみ 4 階 ザ・テラスルーム）

第 486 回 R7.4.22 参加者 67 名（オンライン 7 名含む）

- ・豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 准教授 小野 悠氏
「公民学連携による地域デザイン：国際・地域・科学の視点から」
- ・浜松いわた信用金庫 ソリューション支援部 新産業創造室 金子 洋明氏
「シリコンバレーでの経験とこれからの地域エコシステム構築
～グローバルトレンドを地域企業がキャッチアップするために～」

第 487 回 R7.5.20 参加者 65 名（オンライン 9 名含む）

- ・愛知大学 法学部 教授 西本 昌司氏
「石材から垣間見える経済」
- ・株式会社エムスクエア・ラボ／やさいバス株式会社 代表取締役 加藤 百合子氏
「農業×ANY＝HAPPY ～農業のチカラで地域を HAPPY に！～」

第 488 回 R7.6.24 参加者 56 名（オンライン 10 名含む）

- ・豊橋技術科学大学 総合教育院 教授 藤井 享氏
「大学を基軸とする産学官連携による戦略的協創イノベーションの新展開」
- ・西日本電信電話株式会社 デジタル革新本部 技術革新部 IOWN 推進室 担当課長 今井 徹氏
「IOWN 構想とその先の世界」

第 489 回 R7.7.22 参加者 65 名（オンライン 10 名含む）

- ・愛知大学 文学部 教授 近藤 暁夫氏
「伊能忠敬の東三河」
- ・株式会社渥美フーズ 代表取締役社長 渡会 一仁氏
「『地域スーパー×循環農業』とは？」

第 490 回 R7.8.26 参加者 62 名（オンライン 10 名含む）

- ・豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授 横田 久里子氏
「東三河の水環境」
- ・Craif 株式会社 CLO 法人部門責任者 豊田 高行氏
「名大発スタートアップ Craif が挑戦する最先端のがん対策」

第 491 回 R7.9.24 参加者 48 名（オンライン 4 名含む）

- ・アイティップス株式会社 代表取締役 クマール ラトネッシュ氏
コミュニティ推進マネジャー 永瀬 未希也氏
「日本の職人不足をインドが救う」
- ・愛知工科大学 情報メディア学科 准教授/有限会社アイラ・ラボラトリ 代表取締役 手塚 一佳氏
「アニメによる地域まちおこしの今」

第 492 回 R7. 10. 21 参加者 55 名（オンライン 5 名含む）

- ・豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授 田島 昌樹氏
「建築の室内環境と省エネルギー」
- ・株式会社 Lirem 代表取締役 藪内 龍介氏
「新卒採用が変化し始めた今、地域企業のあるべき姿」

第 493 回 R7. 11. 18 参加者 73 名（オンライン 7 名含む）

- ・愛知大学 文学部 人文社会学科 准教授 田摩 裕祐氏
「これからの『仕事の価値』を問い直す」
- ・株式会社物語コーポレーション 代表取締役社長 加藤 央之氏
「未来を右肩上がりにする理念経営」

第 494 回 R7. 12. 23 参加者 63 名（オンライン 3 名含む）

- ・株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング（J-TEC）代表取締役 社長執行役員 山田 一登氏
「細胞をもちいた再生医療等製品の開発と品質確保」
- ・豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 准教授 東城 友都氏
「身近な土壌が発電する～エネルギーハーベスティング技術～」

第 495 回 R8. 1. 20 参加者 53 名（オンライン 5 名含む）

- ・愛知大学 経営学部 会計ファイナンス学科 教授 冨村 圭氏
「地域金融機関の現状と課題～地域企業の挑戦を支援し地域経済を成長させるためには～」
- ・株式会社ゼンリン エリアソリューション本部 エリア戦略部 部長 手嶋 侑斗氏
「どのように社会的価値と収益拡大を両立するか」

第 496 回 R8. 2. 24 参加者 52 名（オンライン 3 名含む）

- ・豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授 浅野 純一郎氏
「豊橋市を事例に考える、人口減少時代の都市のかたち」
- ・あいちの宝物 共同代表 武谷 弘隆氏
「地域の原石を、世界の宝物へ～あいちの宝物が生み出す人と産業の好循環～」

第 497 回 R8. 3. 17 参加者 55 名（オンライン 3 名含む）

- ・豊橋創造大学 経営学部長・教授 上原 衛氏
「東三河の地域社会における、サステナビリティ経営に必要な経営倫理と人材育成」
- ・三信鉱工株式会社 代表取締役社長 三崎 順一氏
「鉱山開発と手作りコスメ」

2. 東三河午さん交流会 公益社団法人東三河地域研究センターと共催

（年 10 回、5、1 月を除く毎月第 1 金曜日を原則 11:30～13:00）

（於：ホテルアークリッシュ豊橋 4 階 ザ・テラスルーム、R7. 6. 13 のみ 5 階 ザ・グレイス）

第 251 回 R7. 4. 4 参加者 30 名

- ・豊橋市美術博物館 館長 岡田 亘世氏
「びはく（美博）ビフォーアフター 1979-2024『つなぐミュージアム』をめざして」

第 252 回 R7.6.13 参加者 28 名

- ・ ブレイズサーフ 代表/JPSA 公認プロサーファー 萩原 健太氏
「海のまち “とよはし” ～海へ恩返し～」

第 253 回 R7.7.4 参加者 30 名

- ・ NP0 法人てほへ 理事 富田 達郎氏
「のき山学校リボーンプロジェクト！」

第 254 回 R7.8.1 参加者 34 名

- ・ Finger Lime Base 代表 鈴木 豪氏
「小さな果実が繋ぐ出会い～フィンガーライムと私の挑戦～」

第 255 回 R7.9.5 参加者 26 名

- ・ 豊橋市自然史博物館 館長 吉川 博章氏
「未来へつなぐ自然史博物館：これまでの歩みと新たな挑戦」

第 256 回 R7.10.3 参加者 28 名

- ・ 南栄町協議会 理事・副代表 白井 紀充氏
・ 同 法人サポーター 岡田 陽氏
「南栄エストニア計画～地域の未来をデータで描く～」

第 257 回 R7.11.7 参加者 30 名

- ・ 株式会社ビジネスリンク 代表取締役 西川 幸孝氏
「書籍出版の実情～著者として伝えたいこと～」

第 258 回 R7.12.5 参加者 23 名

- ・ 尺八アーティスト/自転車日本一周アドバイザー 森田 泰正氏
「日本一周自転車旅、その挑戦と感動」

第 259 回 R8.2.6 参加者 31 名

- ・ 豊橋中央高等学校 校長 高倉 嘉男氏
「インド映画はなぜ踊るのか」

第 260 回 R8.3.6 参加者 34 名

- ・ 農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー（東栄町地域おこし協力隊） 小川 晴那氏
「クマを正しく知って、正しく畏（おそ）れる」

3. 東三河グローアップミーティング

令和 7 年度 第 1 回東三河グローアップミーティング視察会

「サステナブルな農業を考える視察会」

(R7.6.17 8:30～17:15)

人材不足や高齢化など多くの課題を抱える農業。独自の取組でサステナブルな農業に挑戦する農業事業者を視察

視察農家① 株式会社にいみ農園、視察農家② 株式会社トクイテン
参加者：17 名

令和 7 年度 第 2 回東三河グローアップミーティング視察会

「シンフォニアテクノロジー株式会社工場見学会」

(R8. 2. 17 13:00～16:00)

「響きあう技術」が未来を拓く。世界の産業を支える豊橋のモノづくり最前線を視察
シンフォニアテクノロジー株式会社豊橋製作所視察及びグループワーク

参加者：16 名

4. 令和 8 年 東三河 8 市町村長を囲む新春懇談会

(R8. 1. 6 14:30～17:30 於：ホテルアークリッシュ豊橋 5 階 ザ・グレイス)

テーマ：「縮減社会を見据えた各自治体におけるまちづくりの将来像」

内 容：愛知県副知事、東三河 8 市町村長、湖西市長によるパネルディスカッション

【パネリスト】

愛知県副知事	江口 幸雄氏
豊橋市長	長坂 尚登氏
豊川市長	竹本 幸夫氏
蒲郡市長	鈴木 寿明氏
新城市長	下江 洋行氏
田原市長	山下 政良氏
設楽町長	土屋 浩氏
東栄町長	村上 孝治氏
豊根村長	伊藤 浩亘氏
湖西市長	田内 浩之氏

【コーディネーター】

豊橋技術科学大学 前学長/東京大学 名誉教授 大西 隆氏

参加者：169 名

※17:30～ 賀詞交歓会（128 名参加）

5. 三河港未来戦略会議

第 71 回研究交流会（R7. 4. 14 14:00～16:00 於：豊橋商工会議所 4 階 406 会議室）

講 師：株式会社野村総合研究所

システムコンサルティング事業本部 社会 IT コンサルティング部

グループマネージャー 村川 友章氏

シニアアソシエイト 稲辺 拓也氏

演 題：「日本の自動車リサイクルの現在地と今後の展望

～自動車業界を取り巻く環境の変化について～」

参加者：41 名

第26期報告総会・記念講演会（R7.6.26 13:00～15:00 於：豊橋商工会議所 4階 406会議室）

講 師：国際港湾協会 事務総長 古市 正彦氏

演 題：「最近の世界の港湾の動向と三河湾」

参加者：48名

第72回研究交流会（R8.2.4 14:00～16:00 於：豊橋商工会議所 4階 406会議室）

講 師：独立行政法人日本貿易振興機構 調査部 米州課 小谷田 浩希氏

演 題：「トランプ関税の最新動向および自動車産業に与える影響」

参加者：41名

第73回研究交流会（R8.3.2 14:00～16:00 於：豊橋商工会議所 4階 406会議室）

講 師：朝日大学 経営学部 経営学科長・教授 土井 義夫氏

演 題：「中部圏のサプライチェーンの変化と地方港湾のあり方」

参加者：29名

視察会（R8.3.10 9:15～17:30）

視察先：名古屋港管理組合、飛島ふ頭コンテナターミナル集中ゲート、飛島ふ頭南側
コンテナターミナル

参加者：17名

6. 講演会、懇談会等

令和7年度「三河港関連事業計画及び東三河地区幹線道路整備計画」説明会〔三河港振興会と共催〕
（R7.7.9 13:30～16:00 於：ライフポートとよはし コンサートホール）

（三河港関連）

講 師：国土交通省 中部地方整備局 三河港湾事務所長

渡邊 弘氏

愛知県 三河港務所長

堀尾 朋宏氏

（道路関連）

講 師：国土交通省 中部地方整備局 名四国道事務所長

高見 泰彦氏

国土交通省 中部地方整備局 浜松河川国道事務所長

白井 宏明氏

国土交通省 中部地方整備局 設楽ダム工事事務所長

舘井 恵氏

愛知県 東三河建設事務所長

林 克行氏

愛知県 新城設楽建設事務所長

佐藤 公康氏

参加者：199名（オンライン23名含む）

第1回三遠南信地区地域懇談会〔中部経済同友会、浜松経済同友会と共催〕

（R7.10.20 16:00～19:00 於：ホテルアークリッシュ豊橋 4階 ザ・テラスルーム）

講 師：岐阜大学 工学部 客員教授／名古屋都市センター 特任アドバイザー 加藤 義人氏

演 題：「リニア時代の東海創生～三遠南信地域の活性化を念頭に～」

参加者：55名（東三河懇話会39名）

公益社団法人東三河地域研究センター 総会・記念講演会

(R7.11.25 15:00～17:30 於：ホテルアークリッシュ豊橋 5階 ザ・グレイス)

講師：経済産業省 中部経済産業局 局長 寺村 英信氏

演題：「中部地域の産業における課題と展望」

参加者：80名（オンライン15名含む）

第2回三遠南信地区地域懇談会〔中部経済同友会、浜松経済同友会と共催〕

(R8.2.13 16:00～19:00 於：ホテルアークリッシュ豊橋 4階 ザ・テラスルーム)

講師：長野県 飯田市 市長 佐藤 健氏

演題：「2050年、飯田は日本一住みたいまちになる～環境文化都市』いいだの挑戦～」

参加者：41名（東三河懇話会17名）

特別講演会 (R8.2.27 15:00～17:00 於：豊橋商工会議所 4階 406会議室)

講師：愛知県 総務局 デジタル戦略監 中谷 純之氏

演題：「そのシステム、本当に構築する必要がありますか？

～縮減社会において、すぐにできて効果的なこと～」

参加者：43名

7. 「スマートリージョン研究会」プロジェクトの具現化

公益社団法人東三河地域研究センターにおける「スマートリージョン研究会」に係るプロジェクト具現化に向けて、同センターと連携して「東三河デジタル人材共創プロジェクト」を立ち上げ、以下の活動を実施した。

第1回WG(R7.5.23 15:00～18:00 於：emCAMPUS STUDIO SEMINAR ROOMA)

講師：株式会社豊橋まちなか活性化センター専務取締役 浅野 卓氏

演題：「本プロジェクト・ワーキンググループの狙い、今年度の企画について」

参加者：23名

第2回WG(R7.7.3 15:00～18:00 於：MUSASHI Innovation Lab CLUE)

講師：株式会社Teamie 代表取締役 納土 哲也氏、株式会社NUEVO LAB 寺澤 のぞみ氏

演題：「チームビルディング with AI『The Isolated Village』」

参加者：28名

第3回WG(R7.9.17 15:00～18:00 於：emCAMPUS STUDIO SEMINAR ROOMA)

講師：豊橋技術科学大学 総合教育院 教授 藤井 享氏

演題：「戦略的協創イノベーションとデザイン思考」

参加者：25名

第1回学生ワークショップ(R7.9.26 17:30～20:30 於：豊橋商工会議所 507会議室)

講師：合同会社シーワンエンタープライズ 代表執行役員社長 道下 洋夫氏

演題：「まちおこし総論」

参加者：14名

第2回学生ワークショップ(R7.10.24 17:30~20:30 於：豊橋商工会議所 507 会議室)

講 師：合同会社シーワンエンタープライズ 代表執行役員社長 道下 洋夫氏

演 題：「地域コミュニティ」

参加者：14 名

スピンオフ企画「令和7年度豊橋まちなか未来会議 未来セッションまちづくりDXプロジェクト」

(R7.5.23 15:00~18:00 於：emCAMPUS STUDIO ROOM1)

講 師：NTT 西日本株式会社 エンタープライズビジネス営業部

デジタルデータビジネス担当部長 宇賀 貴史氏

演 題：「NTT グループの共創事例から考えるスマートシティ」

参加者：30 名（一般参加者 12 名含む）

第4回 WG(R8.2.12 15:00~18:00 於：emCAMPUS STUDIO SEMINAR ROOMA)

講 師：株式会社セールスフォース・ジャパン 田中 香織氏

演 題：「デザイン思考で描く、市境を越える『手のひらの自治体』」

参加者：26 名

第5回 WG(R8.3.11 15:00~18:00 於：emCAMPUS STUDIO SEMINAR ROOMA)

講 師：豊橋技術科学大学 総合教育院 教授 藤井 享氏

演 題：「戦略的協創イノベーションとデザイン思考 PART2」

参加者：24 名

8. 東三河地域問題セミナー （主催：公益社団法人東三河地域研究センター）

2024 年度 第2回公開講座(R7.7.2 14:00~16:30 於：豊橋商工会議所 4 階 406 会議室)

講 師：株式会社南信州観光公社 高橋 充氏

演 題：「南信州の観光資源の活かし方と観光 DMO の取組み」

参加者：26 名

2024 年度 第3回公開講座(R7.8.25 14:00~16:30 於：豊橋商工会議所 4 階 406 会議室)

講 師：公益財団法人日本女性学習財団 理事長 野村 浩子氏

演 題：「若い女性の流出防ぐには～地域連携で働きがい～」

参加者：28 名

2025 年度 第1回公開講座(R8.1.16 14:00~16:30 於：豊橋商工会議所 4 階 406 会議室)

講 師：経済産業省 中部経済産業局 資源エネルギー環境部長 山田 容功氏

演 題：「中部地域におけるエネルギー・GX政策」

参加者：32 名

9. ミライカフェほの国 2026 （主催：公益社団法人東三河地域研究センター）

（R8.1.31 10:30～15:30 於：emCAMPUS STUDIO SEMINAR ROOM A・B・C）

内 容：地元高校生によるビジネスプラン発表とグループワーク

参加者：57名（高校生34名、大学生・社会人メンター8名）

10. 東三河地域関連研究発表会 （主催：公益社団法人東三河地域研究センター）

第32回東三河地域関連研究発表会

（R8.3.19 13:00～16:30 於：ホテルアークリッシュ豊橋 5階 ザ・グレイス）

内 容：地元4大学の学生6名による東三河地域に関連した研究テーマの発表

参加者：29名（オンライン2名含む）

11. 各種団体、調査委員会等への参加、協力

- （1）一般社団法人中部経済連合会
- （2）公益財団法人中部圏社会経済研究所
- （3）一般財団法人東海産業技術振興財団
- （4）一般社団法人奥三河ビジョンフォーラム
- （5）愛知県港湾協会
- （6）三河港振興会
- （7）豊かな海“三河湾”環境再生推進協議会
- （8）伊勢湾再生海域検討会
- （9）東三河生態系ネットワーク協議会
- （10）特定非営利活動法人穂の国森づくりの会
- （11）特定非営利活動法人朝倉川育水フォーラム
- （12）東三河流域フォーラム
- （13）一般国道151号改良促進期成同盟会
- （14）豊橋みなとフェスティバル実行委員会
- （15）一般社団法人豊橋観光コンベンション協会
- （16）公益財団法人豊橋市国際交流協会
- （17）公益財団法人豊橋文化振興財団
- （18）豊橋日独協会
- （19）とよはし市電を愛する会
- （20）豊橋市民愛市憲章推進協議会
- （21）530運動環境協議会
- （22）愛知県地球温暖化防止活動推進センター

収 支 決 算 報 告

令和7年度
収 支 決 算 書
(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

収入決算額	38,273,374円
支出決算額	32,138,499円
差引残高	6,134,875円

《 収 入 の 部 》

(単位：円)

科 目	予算額(1)	決算額(2)	差異(2)-(1)	予算比	備 考
1. 会費収入	26,040,000	26,068,500	28,500	100.1%	
1) 法人会費	23,400,000	23,370,000	△ 30,000	99.9%	
2) 個人会費	300,000	300,000	0	100.0%	
3) 特別会費	2,340,000	2,398,500	58,500	102.5%	
2. 事業収入	4,365,000	4,064,833	△ 300,167	93.1%	
1) 産学官交流サロン	2,400,000	2,208,000	△ 192,000	92.0%	
2) 午さん交流会	1,233,000	1,146,000	△ 87,000	92.9%	
3) 新春懇談会	120,000	119,000	△ 1,000	99.2%	
4) その他の事業	612,000	591,833	△ 20,167	96.7%	
3. その他の収入	1,793,000	2,025,306	232,306	113.0%	
1) 特定預金取崩収入	1,000,000	1,000,000	0	100.0%	
① 減価償却引当特定預金	0	0	0	0.0%	
② 財政調整引当預金	1,000,000	1,000,000	0	100.0%	
2) 雑収入	793,000	1,025,306	232,306	129.3%	
① 受取利息	13,000	39,906	26,906	307.0%	
② 雑収入	780,000	985,400	205,400	126.3%	
当期収入合計	32,198,000	32,158,639	△ 39,361	99.9%	(A)
前期繰越収支差額	6,114,735	6,114,735	0	100.0%	
収入合計	38,312,735	38,273,374	△ 39,361	99.9%	(B)

《 支 出 の 部 》

(単位：円)

科 目	予算額(1)	決算額(2)	差異(2)-(1)	予算比	備 考
1. 運営事業費	1,393,000	881,415	△ 511,585	63.3%	
1) 総会・理事会費	883,000	858,315	△ 24,685	97.2%	総会資料
2) 広報費	0	0	0	0.0%	会報誌発行
3) 講演・説明会費	510,000	23,100	△ 486,900	4.5%	
2. 事業費	8,870,000	6,607,357	△ 2,262,643	74.5%	
1) 産学官交流サロン	3,600,000	3,402,431	△ 197,569	94.5%	
2) 午さん交流会	1,200,000	953,844	△ 246,156	79.5%	
3) 新春懇談会	740,000	803,855	63,855	108.6%	
4) その他の事業	3,330,000	1,447,227	△ 1,882,773	43.5%	
3. 調査・研究費	11,738,000	11,664,120	△ 73,880	99.4%	
1) 調査・研究費	8,680,000	8,689,500	9,500	100.1%	研究センター分(会費の1/3)
2) 研究・活動費	3,058,000	2,974,620	△ 83,380	97.3%	
4. 管理費	9,719,800	9,471,537	△ 248,263	97.4%	
1) 給料手当	3,670,000	3,609,101	△ 60,899	98.3%	
2) 福利厚生費	645,000	594,723	△ 50,277	92.2%	
① 福利厚生費	5,000	2,556	△ 2,444	51.1%	
② 法定福利費	640,000	592,167	△ 47,833	92.5%	
3) 会議費	10,000	10,650	650	106.5%	
4) 旅費交通費	48,000	22,960	△ 25,040	47.8%	
5) 通信運搬費	605,000	470,271	△ 134,729	77.7%	通信機器リース料含む
6) 消耗品費	819,000	920,864	101,864	112.4%	
① 消耗什器備品費	0	0	0	0.0%	
② 消耗品費	819,000	920,864	101,864	112.4%	OA機器リース料含む
7) 修繕費	0	0	0	0.0%	
8) 印刷製本費	0	0	0	0.0%	
9) 新聞・図書費	197,000	199,160	2,160	101.1%	
10) 水道光熱費	310,000	256,474	△ 53,526	82.7%	
11) 賃借料	2,956,800	2,956,800	0	100.0%	事務所賃借料
12) 交際費	36,000	21,116	△ 14,884	58.7%	
13) 諸会費	353,000	345,000	△ 8,000	97.7%	他団体の年会費等
14) 雑費	70,000	64,418	△ 5,582	92.0%	
5. その他の支出	356,265	3,514,070	3,157,805	986.4%	
1) 固定資産購入支出	0	0	0	0.0%	
2) 特定預金繰入支出	356,265	3,514,070	3,157,805	986.4%	
① 減価償却引当特定預金	56,265	14,070	0	100.0%	
② 財政調整引当預金	300,000	3,500,000	3,200,000	1166.7%	
当期支出合計	32,077,065	32,138,499	61,434	100.2%	(C)
当期収支差額	120,935	20,140	△ 100,795		(A) - (C)
次期繰越収支差額	6,235,670	6,134,875	△ 100,795		(B) - (C)

貸借対照表

令和8年3月31日 現在

(単位：円)

科 目		金 額	
Ⅰ．資産の部			
1. 流動資産			
(1)現金		154,418	
(2)預金		7,293,764	
(3)未収入金		4,000	
(4)前払金		305,800	
流動資産合計		7,757,982	
2. 固定資産			
(1)設備什器備品		1	
(2)電話加入権		213,000	
(3)敷金		2,688,000	
(4)減価償却引当特定預金		2,822,204	
(5)事務所移転費用積立預金		200,000	
(6)財政調整引当預金		6,598,000	
固定資産合計		12,521,205	
資産合計			20,279,187
Ⅱ．負債の部			
1. 流動負債			
(1)未払金		620,068	
(2)預り金		754,182	
流動負債合計		1,374,250	
負債合計			1,374,250
Ⅲ．正味財産の部			
正味財産			18,904,937
(うち当期正味財産増加額)			(2,520,140)
負債及び正味財産合計			20,279,187

正味財産増減計算書

令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目		金 額	
I . 増加の部			
1. 資産増加額			
当期収支差額	20,140		
減価償却引当特定預金増加額	14,070		
財政調整引当預金増加額	3,500,000		
資産増加額計		3,534,210	
2. 負債減少額			
負債減少額	0	0	
増加額合計			3,534,210
II . 減少の部			
1. 資産減少額			
什器備品減価償却額	14,070		
財政調整引当預金減少額	1,000,000		
資産減少額計		1,014,070	
2. 負債増加額			
負債増加額	0	0	
減少額合計			1,014,070
当期正味財産増加額			2,520,140
前期繰越正味財産額			16,384,797
期末正味財産合計額			18,904,937

監 査 報 告 書

東 三 河 懇 話 会
会長 神野 吾郎 殿

東三河懇話会の、令和7年度（令和7年4月1日から令和8年3月31日まで）収支決算書、正味財産増減計算書、貸借対照表およびその他の計算書類、関係帳簿を監査した結果、いずれも適法かつ正確であることを認めます。

令和8年5月8日

東 三 河 懇 話 会

監 事 豊橋信用金庫 専務理事

宮 川 直 樹 印

監 事 株式会社三菱UFJ銀行 豊橋支店長

小 川 貴 弘 印

監 事 中部電力パワーグリッド株式会社 豊橋支社 東三河地区統括長

中 村 光 印

議 案 2. 令和 8 年度事業計画（案）並びに収支予算（案）の件

令和 8 年度事業計画（案）

自 令和 8 年 4 月 1 日

至 令和 9 年 3 月 3 1 日

1. 基本方針

本年度は、世界では中東情勢の緊迫化により原油価格が高騰し、物流停滞や供給制約が各国経済の下押し要因となっています。一方、アメリカを中心に AI 関連需要が世界的に拡大し、設備投資は底堅く推移しています。また、日本においては物価上昇とエネルギー価格高騰がインフレ要因として家計と企業収益を圧迫し、自動車産業を中心に当地域における企業活動や消費活動にも少なからず影響が及ぶことが懸念されています。

このような状況下において、地域課題の解決から新たな価値を創造し、住民本位で持続的発展が可能な地域社会の実現を目指す取組が必要となっています。また、企業の事業継続や持続的成長のため、地域の人的資源の有効活用に加え、高度なデジタル技術を取り入れたサービスや新製品の開発、新規事業の立ち上げ、スタートアップ企業との連携など多彩な取組が求められています。

今年度はこうした背景を踏まえ、「東三河産学官交流サロン」をはじめとする産学官民交流事業につきましては、持続可能で安心して豊かに暮らせる地域を実現するための視点をテーマとして設定し、オンラインを併用しながら事業を推進してまいります。また、地域の課題解決のヒントとなる講演会や視察会を企画し、産学官民交流の新たな場づくりにつながる取組を行っていくとともに、公益社団法人東三河地域研究センターにおける「スマートリージョン研究会」に係るプロジェクトの具現化に対する取組として、東三河における産学官連携によるデジタル人材育成の実践機会を設け、デジタル技術を活用した地域課題解決のための地域DXの推進を支援してまいります。

広域連携事業につきましては、関係機関との良好な関係を保持するとともに、「東三河 8 市町村長を囲む新春懇談会」、「東三河に係る地域インフラ事業説明会」、「三河港未来戦略会議」における研究交流会や視察会、また関係団体と連携した「特別講演会」の開催などを通じて、会員の皆さまに有用な情報を提供してまいります。

会員サービス事業につきましては、ホームページにおけるタイムリーな情報提供に加え、本会に関する事業計画や会員の皆さまからご提供いただいた情報を集約した「メールマガジン」を毎月発行する取組を継続してまいります。その他、「スマートリージョン研究会」プロジェクト提言内容の具現化のために、公益社団法人東三河地域研究センターとの一層の連携強化に努めるとともに、有益な情報の提供と会員サービスの充実に取り組んでまいります。

まだまだ先行きが不透明な状況が続きますが、今後も会員の皆さまとの結束力を一層高めながら地域のつながりを進めるネットワークセンターの役割を果たし、「東三河はひとつ」を合言葉に、未来に向けた地域づくりを鋭意進めていく所存です。

2. 事業計画

(1) 産学官民交流事業

①東三河産学官交流サロン（12回／年）

産学官民の交流連携、情報交換の場をオンライン併用にて提供。本年度は「ウェルビーイング」をテーマに東三河の産学官民の講師や外部講師を招聘し、会員にとって「知」の場となるタイムリーな情報を発信する。また、新しい企画の実施などにより、会員との双方向のコミュニケーション促進を図る。

②東三河午さん交流会（10回／年）

地域に密着したさまざまな話題をピックアップ。主に、東三河において社会活動や文化芸術活動を実践し、地域づくりに貢献されている方々を紹介し、会員への情報発信を行う。

③東三河グローアップミーティング（2回／年）

本会会員の次世代を担う人材の育成と、地域の価値を発見・認識することによる地域への理解や愛着を深めることを目的とし、「地域の価値を見つけてひらく」をテーマに、講演会・勉強会等を通じて学び、成長したいと考えている方々が集い、交流する場を創出する。本年度も emCAMPUS 運営室と協力を行い、本会の会員の若手メンバーと、会員外団体等の若手との交流機会を設けることにより、地域の人的ネットワークの充実を図る。

④特別講演会

デジタルツールの活用や人的資源の活用方法、地域問題に対する取組事例など、経済社会環境の変化に対応し、東三河地域の持続的な発展のヒントとなる内容の講演会を検討し、実施する。

⑤視察会

経済社会環境の変化や、東三河において話題となっている地域テーマを選定し、東三河地域の持続的な発展や、広域的な連携の参考となる場所、施設等の視察会開催を検討し、実施する。

⑥「スマートリージョン研究会」の具現化

公益社団法人東三河地域研究センターにおける「スマートリージョン研究会」に係るプロジェクトの具現化に対する取組として、「東三河デジタル人材共創プロジェクト」におけるワーキンググループ、学生ワークショップ、視察会などを通して地域課題に対する地域データの収集と現状分析を行い、まちづくりDX課題の仮説構築の上、デジタルサービスの優先テーマを決定し、デジタルツールのコンセプト・基本設計、並びにその運用を検討する段階まで進める。また、これらの動きを東三河地域のデジタル人材育成プログラムに結び付ける。

(2) 広域連携事業

①東三河 8 市町村長を囲む新春懇談会

新春恒例の事業。東三河地域における共通の課題・テーマに関し、東三河 8 市町村長にゲストパネラーとして愛知県副知事（東三河担当）、湖西市長を加えたパネルディスカッションの実施により、東三河のこれからの姿を展望するとともに、会員をはじめ地域住民に広く情報発信する。

②三河港未来戦略会議

三河港振興会・自動車港湾委員会等と連携をとりながら研究活動を計画。三河港を中心として、広域幹線道路などの広域インフラの整備、DX化等による効率化、カーボンニュートラルポートの形成や経済活動などに関わる事業活動について、未来を見据えながら調査研究を進めるとともに、公益社団法人東三河地域研究センターが主催する研究交流会・視察会、会員企業と連携したプロジェクトの検討についてサポートを行う。

③東三河生態系ネットワーク協議会

東三河生態系ネットワーク協議会の事務局として、SDGs（持続可能な開発目標）の目標である「14.海の豊かさを守ろう」、「15.陸の豊かさを守ろう」を中心に活動を展開し、自然とのふれあい体験や生態系フォーラムなどの交付金対象事業を実施するとともに、役員会の開催、企業や団体の協議会への参加呼び掛け、並びに協議会加入団体の活動への支援・協力を実施する。

④地域インフラ事業の説明会

「三河港関連事業整備計画及び東三河地区幹線道路整備計画」説明会を主催し、東三河地域で進むインフラ等の計画・進捗状況について、関係機関と連携しながら会員等に情報発信する。

⑤各種団体との連携・協力

中部経済同友会、浜松経済同友会、三河港振興会、東三河県庁、豊橋市等との連携・協力により、講演会の企画など会員交流や産学官民連携に向けた取組を推進する。

(3) 会員サービス事業

①広報活動の一層の推進

会報誌「MIKAWA—NAV I」（季刊）を本会ホームページに掲載する。
本会主催の各種催事の開催案内などを、本会ホームページでタイムリーに情報発信する。
(URL <https://www.konwakai.jp/>)

②会員（地域）情報の収集とメールマガジンによる発信

本会に関する事業計画や会員の皆さまからご提供いただいた情報を集約した「メールマガジン」を毎月発行する取組を継続するとともに、会員への有益な情報の発信に努める。

③会員意見の収集と運営への活用

会員への定期訪問等によるヒアリング調査を実施することで、地域づくりや本会の活動等に関するニーズを把握し、現状活動内容の見直しを行うことにより、会員にとってより価値のある事業運営を実現する。

④会員サービスの質的向上

公益社団法人東三河地域研究センターとの情報共有と連携強化を図り、同センターが保有するシンクタンク機能を活用し、会員にとって有益な産学官民交流および広域連携事業の充実を図る。また、本会ホームページに会員からの有用な情報を無償で掲載する。

⑤「東三河地域問題セミナー」の周知と動員

東三河の現状と将来を考え、地域をリードする人材育成のための基礎的・専門的な知識を得る場として、公益社団法人東三河地域研究センターが主催する当該セミナーを会員内外に広く周知し、動員を図る。

(4) 会員増強

東三河の産学官民交流の場としてのコミュニケーションセンター機能を充実させ、会員相互の交流による地域連携の有益性を訴求し、広く地域の方々に提議する。併せて、商工会議所、商工会の会員企業、青年会議所等他団体との交流を深め、本会に未加入の企業に対する勧誘活動を推進するなど、会員の増強を図る。

**令和8年度
収 支 予 算（案）**
（令和8年4月1日から令和9年3月31日まで）

《 収 入 の 部 》

（単位：円）

科 目	令和8年度	令和7年度	令和7年度	前年	備 考
	予算額	決算額	予算額	予算比	
1. 会費収入	25,818,000	26,068,500	26,040,000	99.1%	
1) 法人会費	23,040,000	23,370,000	23,400,000	98.5%	
2) 個人会費	360,000	300,000	300,000	120.0%	
3) 特別会費	2,418,000	2,398,500	2,340,000	103.3%	
2. 事業収入	4,476,000	4,064,833	4,365,000	102.5%	
1) 産学官交流サロン	2,400,000	2,208,000	2,400,000	100.0%	
2) 午さん交流会	1,194,000	1,146,000	1,233,000	96.8%	
3) 新春懇談会	120,000	119,000	120,000	100.0%	
4) その他の事業	762,000	591,833	612,000	124.5%	
3. その他の収入	2,728,000	2,025,306	1,793,000	152.1%	
1) 特定預金取崩収入	2,000,000	1,000,000	1,000,000	200.0%	
① 減価償却引当特定預金	0	0	0	0.0%	
② 財政調整引当預金	2,000,000	1,000,000	1,000,000	200.0%	
2) 雑収入	728,000	1,025,306	793,000	91.8%	
① 受取利息	13,000	39,906	13,000	100.0%	
② 雑収入	715,000	985,400	780,000	91.7%	
当期収入合計	33,022,000	32,158,639	32,198,000	102.6%	(A)
前期繰越収支差額	6,134,875	6,114,735	6,114,735	100.3%	
収入合計	39,156,875	38,273,374	38,312,735	102.2%	(B)

《 支 出 の 部 》

(単位：円)

科 目	令和8年度	令和7年度	令和7年度	前年	備 考
	予算額	決算額	予算額	予算比	
1. 運営事業費	903,000	881,415	1,393,000	64.8%	
1) 総会・理事会費	893,000	858,315	883,000	101.1%	
2) 広報費	0	0	0	0.0%	
3) 講演・説明会費	10,000	23,100	510,000	2.0%	
2. 事業費	10,470,000	6,607,357	8,870,000	118.0%	
1) 産学官交流サロン	3,600,000	3,402,431	3,600,000	100.0%	
2) 午さん交流会	1,000,000	953,844	1,200,000	83.3%	
3) 新春懇談会	840,000	803,855	740,000	113.5%	
4) その他の事業	5,030,000	1,447,227	3,330,000	151.1%	
3. 調査・研究費	11,609,500	11,664,120	11,738,000	98.9%	
1) 調査・研究費	8,606,000	8,689,500	8,680,000	99.1%	研究センター分(会費の1/3)
2) 研究・活動費	3,003,500	2,974,620	3,058,000	98.2%	
4. 管理費	9,880,361	9,471,537	9,719,800	101.7%	
1) 給料手当	3,767,500	3,609,101	3,670,000	102.7%	
2) 福利厚生費	640,768	594,723	645,000	99.3%	
① 福利厚生費	5,000	2,556	5,000	100.0%	
② 法定福利費	635,768	592,167	640,000	99.3%	
3) 会議費	10,000	10,650	10,000	100.0%	
4) 旅費交通費	44,000	22,960	48,000	91.7%	
5) 通信運搬費	599,544	470,271	605,000	99.1%	
6) 消耗品費	719,000	920,864	819,000	87.8%	
① 消耗什器備品費	0	0	0	0.0%	
② 消耗品費	719,000	920,864	819,000	87.8%	
7) 修繕費	0	0	0	0.0%	
8) 印刷製本費	180,000	0	0	0.0%	
9) 新聞・図書費	205,200	199,160	197,000	104.2%	
10) 水道光熱費	302,545	256,474	310,000	97.6%	
11) 賃借料	2,956,800	2,956,800	2,956,800	100.0%	
12) 交際費	33,000	21,116	36,000	91.7%	
13) 諸会費	353,000	345,000	353,000	100.0%	
14) 雑費	69,004	64,418	70,000	98.6%	
5. その他の支出	0	3,514,070	356,265	0.0%	
1) 固定資産購入支出	0	0	0	0.0%	
2) 特定預金繰入支出	0	3,514,070	356,265	0.0%	
① 減価償却引当特定預金	0	14,070	56,265	0.0%	
② 財政調整引当預金	0	3,500,000	300,000	0.0%	
当期支出合計	32,862,861	32,138,499	32,077,065	102.4%	(C)
当期収支差額	159,139	20,140	120,935		(A)－(C)
次期繰越収支差額	6,294,014	6,134,875	6,235,670		(B)－(C)

議 案 3. 役員改選の件

役 職	退 任	就 任
常任理事	NTT西日本(株) 東海支店ビジネス営業部 三河営業支店長 宮本 順子	NTT西日本(株) 東海支店ビジネス営業部 三河営業支店長 河部 吉伸
同		(株)サーラコーポレーション 執行役員グループDX推進 兼地域関連事業兼監査部担当 浅野 卓
同	(株)総合開発機構 代表取締役社長 前田 英範	(株)総合開発機構 代表取締役社長 鈴木 健太郎
同	(株)デンソー 豊橋製作所長 阿部 守一	(株)デンソー 豊橋製作所長 岡田 和浩
同	トヨタ自動車(株) 田原工場長 瀬理 正宏	トヨタ自動車(株) 田原工場長 磯野 忠久
同	三菱ケミカル(株) 東海事業所 愛知工場長 笠坊 行生	三菱ケミカル(株) 東海事業所 愛知工場長 大上 泰弘
理事	(株)静岡銀行 豊橋支店長 平林 秀哲	(株)静岡銀行 豊橋支店長 芦川 昌史
同	総合埠頭(株) 代表取締役社長 二谷 勉	総合埠頭(株) 代表取締役社長 服部 剛
同	(株)中部 代表取締役社長 榎林 孝尚	(株)中部 代表取締役社長 寺田 定雄

※任期は、令和10年度定時総会の終結の時までとする。

令和8年度 東三河懇話会役員名簿（案）

※太字は変更部分を示す

会 長	(株)サーラコーポレーション 代表取締役社長兼グループ代表・CEO	神野吾郎
副会長	(株)トヨテック 代表取締役会長	小野喜明
同	(株)ニデック 代表取締役社長	小澤素生
同	イノチオホールディングス(株) 代表取締役社長	石黒 功
同	ヤマサちくわ(株) 代表取締役社長	佐藤元英
同	(株)田村組 代表取締役社長	田村太一
専任理事	東三河懇話会	福田裕之
常任理事	(株)アイセロ 代表取締役社長	盛田 智
同	NTT西日本(株) 東海支店ビジネス営業部 三河営業支店長	河部吉伸
同	オーエスジー(株) 代表取締役会長兼CEO	石川則男
同	(株)オノコム 代表取締役会長	小野喬四朗
同	蒲郡信用金庫 理事長	岡本聡哉
同	小池商事(株) 代表取締役社長	小池高弘
同	壽鑛業(株) 取締役会長	河合利則
同	サーラエナジー(株) 代表取締役社長	鈴木敬太郎
同	(株)サーラコーポレーション	
	執行役員グループDX推進兼地域関連事業兼監査部担当	浅野 卓
同	新東工業(株) シニアアドバイザー	久野恒靖
同	鈴与(株) 豊橋支店長	永田智大
同	(株)総合開発機構 代表取締役社長	鈴木健太郎
同	総合ポートサービス(株) 代表取締役社長	豊田正博
同	(株)大三コーポレーション 代表取締役	松井孝悦
同	中部電力パワーグリッド(株) 豊橋支社長	村田好章
同	(株)デンソー 豊橋製作所長	岡田和浩
同	トピー工業(株) 豊橋製造所執行役員所長	上手研二
同	豊川信用金庫 理事長	真田光彦
同	トヨタ自動車(株) 田原工場長	磯野忠久
同	豊橋鉄道(株) 代表取締役社長	岩ヶ谷光晴
同	豊橋三菱ふそう自動車販売(株) 代表取締役会長	鈴木伊能勢
同	西島(株) 代表取締役社長	西島 豊
同	日東電工(株) 豊橋事業所長	高吉勇一
同	丸利建設(株) 代表取締役	権田知宏
同	三菱ケミカル(株) 東海事業所 愛知工場長	大上泰弘

理 事	アオキトランス(株) 取締役海貨本部長	松永敏之
同	岡崎信用金庫 理事長	田中秀明
同	鹿島建設(株) 執行役員中部支店長	秋田大次郎
同	川北電気工業(株) 代表取締役社長	大津正己
同	(株)サーラホテル&レストランズ シニアマネージャー	梅岡浩昭
同	(株)静岡銀行 豊橋支店長	芦川昌史
同	(株)清水銀行 代表取締役頭取	岩山靖宏
同	鈴与(株) 取締役会長	鈴木與平
同	(株)総合開発機構 代表取締役副社長	伊藤信一
同	総合埠頭(株) 代表取締役社長	服部 剛
同	大成建設(株) 常務執行役員中部支店長	鈴木淳司
同	(株)中日新聞社 代表取締役社長	大島宇一郎
同	(株)中部 代表取締役社長	寺田定雄
同	東海C S(株) 代表取締役社長	河合則子
同	(株)トーエネック 豊橋営業所長	市川伸明
同	トピー海運(株) 代表取締役社長	飯塚 剛
同	(株)名古屋銀行 取締役頭取	藤原一朗
同	日本通運(株) 豊橋支店長	加藤 充
同	本多プラス(株) 代表取締役社長	本多孝充
同	(株)三井住友銀行 豊橋法人営業部長	小松義明
同	三井住友信託銀行(株) 豊橋支店長	水戸 学
同	ユタカコーポレーション(株) 代表取締役社長	大塩啓太郎
監 事	豊橋信用金庫 専務理事	宮川直樹
同	(株)三菱UFJ銀行 豊橋支店長	小川貴弘
同	中部電力パワーグリッド(株) 豊橋支社東三河地区統括長	中村 光

(敬称略)

<メモ欄>

東 三 河 懇 話 会

〒440-0888 豊橋市駅前大通3-53 太陽生命豊橋ビル2階

TEL (0532)55-5141 FAX (0532)56-0981

E-mail info@konwakai.jp

URL <https://www.konwakai.jp/>